

スティーブン・グリアが英国ロンドンで9月8日に行ったプレゼンの内容から、興味深い箇所を以下にまとめます。

2005年ネバタ州北部のネリス空軍基地周辺で人工 UFO (ARV) と撃墜 UFO の両方の回収チームに所属していた軍人 T.E の証言。

T.E.のプロフィール

彼は1年半か、それより少し前にグリアに接触してきた(このグリアのプレゼンは2024年9月8日)。

彼は2000年に通常航空機、たとえば F35 などが故障・墜落した際の回収班に加わった。

墜落機体には機密も多い。

回収班の要員は破片などを回収するが、機密には触れないようにしないとイケない。

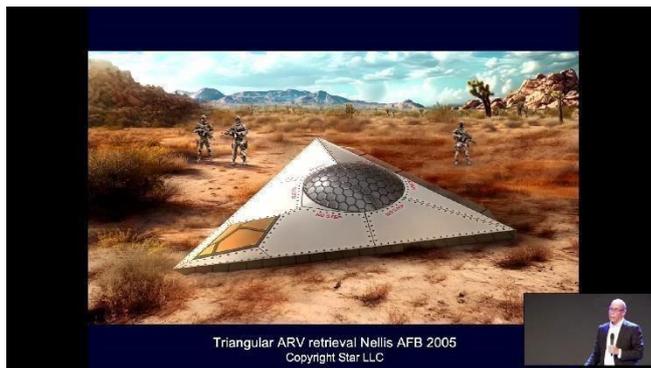
その点で彼はテストされ、次は人工 UFO の特別回収班に配属された。

彼が働くようになったのはネリス空軍基地ではなく、そこから離れたところにある、かつて水爆実験に使われたネバタ州北部の実験場だった。

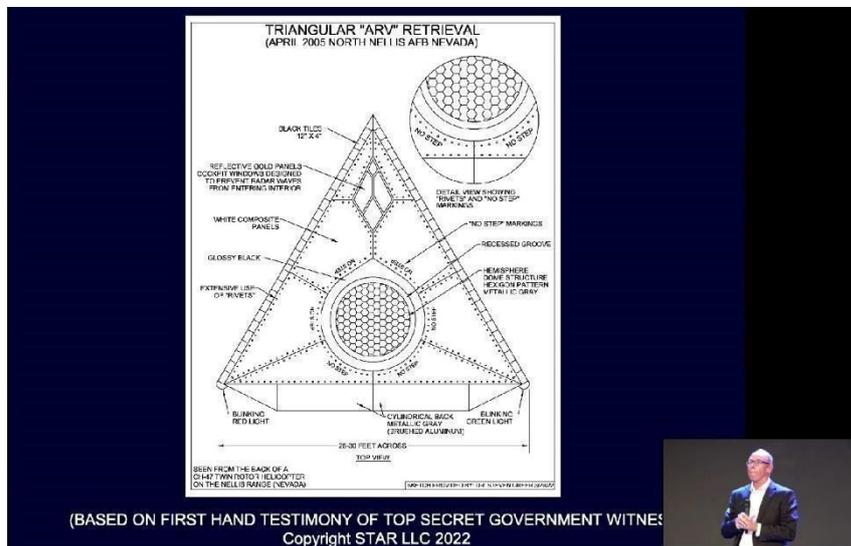
その原野に墜落したのは反重力装置を備えた違法ブラックプロジェクトの人工 UFO だった。

三角形型で、リベットを使って製造されていた。

彼はこの人工 UFO の回収にあたったのだった。



彼によるこの人工 UFO の詳細な描写がある(ネリス空軍基地近郊で CH-47 ツインローター・ヘリコプター後部から見た図)。



三角の縁は黒いタイルが張られ、機体表面は白い合成パネル。

そこには NO STEP(上に乗ってはいけない)のマークがついている。

中心に半球型のドームがあり、その表面は六角形模様のグレイメタルで覆われている。

そのドームの縁は光沢のある黒。

その外側を窪んだ溝が取り巻いている。

ドームと三角の一つの頂点の間に菱形の反射する金色のパネルがある。

そこはコックピットの窓であり、レーダー波が内部に入らないような造りになっている。

機体全体、パネルの端にリベットが打たれている。

三角の底辺の端にそれぞれ左に赤、右に緑のライトがついている(注:これは通常の航空機の航空灯と同じ)。

以上は機体の表面の描写。

機体の底の部分は磨かれたアルミで円筒形。

三角形の1辺の長さは25～30フィート。

こんなものがテムズ川上空を飛ばば、誰でも UFO を見たと思ってしまうだろう。

私(グリア)がプレゼン(ブリーフィング)した英国防大臣も、こんな航空機があることは知らなかった。

私がアングロサクソンの5つの国の国防大臣のうち、プレゼンしていないのはニュージーランドの国防大臣だけだ。

さて、回収班に加わっていた T.E.が驚愕したケースがある。

「ひまわりの種」型 ET 宇宙船 ネリス空軍基地の北方面にて 直径65フィート



これは彼が言うにはとても酷い体験だった。

彼は回収班として活動していただけで ET 宇宙船撃墜には関わっていなかった。

撃墜は極秘事項であり、特別に情報制御された特別アクセスプロジェクトである。

彼はそんな撃墜プロジェクトには関与していなかったし、その存在を知らなかった。

内部通報者が私のもとにやってくるのは、私にプロジェクトの全体像を教えてもらうためであることが多い。

私はこれまで何千人もの内部通報者の疑問に答えてきた。

どのように撃墜するのか。どんなテクノロジーが星間宇宙船を撃墜できるのかなどの疑問に答えてきた。

今回のケースで宇宙船は操縦不能になったが、無傷だった。

スタンガンで気絶させるケースに似た状況だった。

宇宙船はネリス空軍基地から約150マイル北の荒野に墜落した。

その宇宙船はとても大きくて美しい機体だった。

彼が言うには墜落した機体はまるで皮をむいたフルーツのようだった。平べったい形の異様な物体だった。

さて、この気絶状態の宇宙船が息を吹き返し始めた。

それを見た者全員が硬直した。

上空では三角形の人工 UFO (ARV) が地上の ET 宇宙船を見張り、牽制していた。

ET 宇宙船は復活したとたん、赤みがかった脈動する光を放ち始めた。

上空の人工 UFO のオペレーターたちは自分たちが撃墜されると思い、機体を動かし始めた。

地上にいた連中はヘリコプターに乗って逃げ出した。

彼自身は防護服を着た仲間に交じっていた。

戦闘服に銃をもったセキュリティ担当の者たちもいた。

彼は自分とはとるに足りないヤツで、散らばった物を拾うだけの人間だったという。

これら全員が巻き添えを食った。

SFのように聞こえてしまうだろうが、電磁波のようなものが全員の体を通り抜けて、みな凍り付いた。

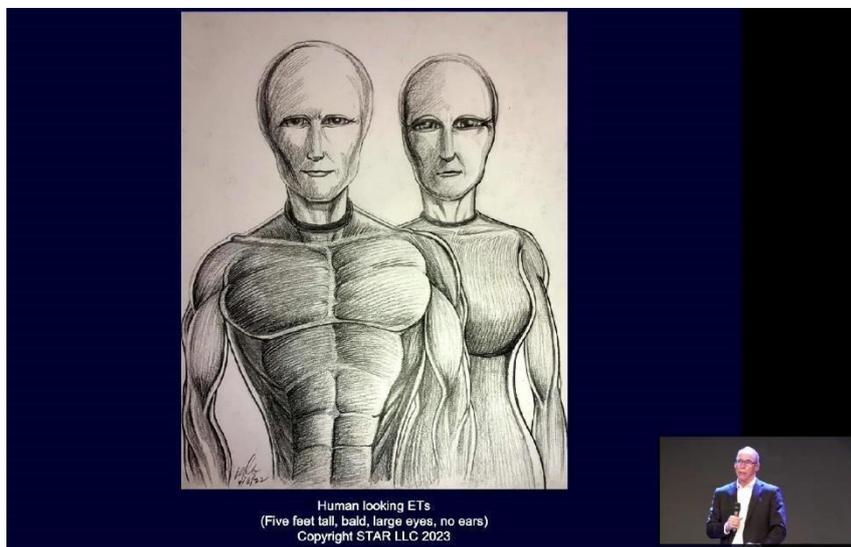
そして多くの者が転倒し、動かなくなった。

なぜか彼はまだ意識があった。

彼は情愛豊かな人間だった。気持の優しい人だった。

それで意識を保てたのかもしれない。

すると2体の ET が彼に向かってやってきた。男性と女性のようなようだった。



そして彼にテレパシーで話しかけてきた。

彼らは言った。このような愚かな行為をこれ以上続けることは許されないと。

これは警告だった。

彼が言うには、彼らは非常に美しい精神の持ち主だった。

悪意は全くなかった。

悪意があるのは人間が造ったレプティリアンやグレイだ。

中には本当の爬虫類よりひどく戯画化されたものまである。

これらは人間に操られている。

これは実に念入りに仕組まれた欺瞞であり、混乱を生んでいる。

UFO 事象を学ぶ人の99%はこの偽情報をつかまされている。

それは意図されたものだ。

それとは異なり、彼が会った ET は非常に美しく、信じられないほど不思議なアクアマリン色の青い瞳をした美しい精神の持ち主だった。

そして彼は自分が機械の一部となり、歯車となって仕出かしたことに強い罪悪感を感じ、このプロジェクトから抜け出ようとした。

彼には伯父がおり、我々はその人物を知っている。

その人物はこの極秘プロジェクト内でも高位にあった。

たぶんそれで連中は彼をプロジェクトに引き入れたのだろう。

それでどうなったか？

彼が殺された理由は唯一その伯父の存在だ。

なぜなら彼は自分が加わった班の情報全てを握ったまま、ヘリコプター基地を去ったからだ。

彼は組織を抜け出た。

彼はプロジェクトから抜けたあと彼の出身州に戻った。

それがどこかは言わないでおく。

彼が体験したエピソードがまだある。

彼は回収のためのトラックを運転していた。

すると突然、あの奇妙な三角形の物体が現れた。人工の宇宙船だ。

彼は彼方の草原の中にあるものを見た。

ブッシュの中には一団の特殊部隊がいた。彼らは草や藁を身につけて擬装していた。

それらを体にくっつけていた彼らは背景に溶け込んでいた。

彼のトラックは停止した。

彼らが電磁スカラー兵器をもっていたからだ。

許可証を見せたが、進めなかった。

彼が横を見ると彼の車の脇に例のヤツがいた。

よく知られたグレイ型エイリアンが。

彼の血の気は失せた。

ヤツらは彼をアブダクトする。何をするか知れなかった。

そこで彼は思いっきり強くドアを開け、この生き物にぶち当て、そしてキックを食らわせた。

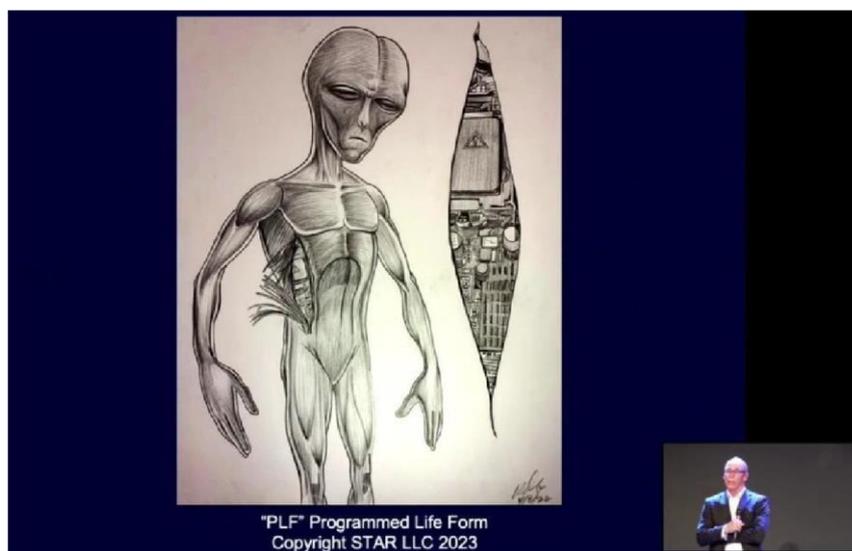
キックしたとき、その生き物の皮膚が合成皮革だと分かった。

その皮膚が裂け、中に光ファイバーや集積回路などの部品が見えた。

グレイは動かなくなった。

グレイは非常に進化したロボット状の生命体だった。

多くの人がエイリアンと呼ぶ存在の正体がそれだった。



解説

グリアのプレゼンのこの箇所にはいくつか重要なポイントが入っていて訳出する価値のあるものだったと思います。

1. まず、細かな状況説明があり、具体性が豊かでリアル。現実感を寄こす。
2. 多くの UFO マニアが陥っている地下に巣食う悪い ET たちという誤った認識を正してくれている。

実際は地下基地に巣食う軍産複合体由来の USAPs の人間たちが、高度なテクノロジーを使って一種のロボットであるグレイやレプタリアンを造り、アブダクションなどの悪質行為をしている。

3. グリアは多くの内部告発者から得た USAPs に関する膨大な情報を持ち、個々の内部告発者が分からない全体像を把握している。

そして米国・英国・カナダ・オーストラリアなど各国の防衛大臣にその UFO 情報を伝えている。

スティーブン・グリアという人物の信頼性の高さが分かる。

4. ETが高い精神性をもった存在であることがエピソードとして表現されている。

5. ET側はUSAPs要員たちを気絶させることができる。

彼らは既に高い精神文明を築いていて、戦争などしない人たちであり、彼らの宇宙船が多数撃墜され、多くの乗員が殺されても反撃してこなかった。

しかし、野蛮な地球人の攻撃から身を守らないといけない緊急事態では人間の意識を麻痺させることもできることが示された。

なお、図はイラストレーターが状況を再現したものです。

グリアは2023年6月12日にワシントン DC の記者クラブで行ったディスクロージャーでもこの図を使って解説していますが、このロンドンでの説明の方が詳しいです。